

緒 言

本書『現代社会教育・生涯学習の諸相』（全3巻）は、これまでに発表してきた論文、その中でも、査読付き学会誌に掲載された論文を中心に集約したものである。

集約にあたっては、「歴史編」「現代編」「実践編」の3つの主題に即して、各巻に収めた。重複その他の箇所については、若干の修正・加筆を行ったが、できる限り原文を生かすことにした。なお、本第Ⅲ巻「実践編」の初出は、以下のとおりである。

- 第1章 「公民館事業」研究の到達点と課題、日本公民館学会年報 10、2013、6-15。
- 第2章 小川利夫社会教育論における「公民館（社会教育）実践研究」の視点、日本公民館学会年報 5、2008、38-48。
- 第3章 地域住民による公民館事業の企画・運営と公民館職員の役割、日本公民館学会年報 8、2011、30-39。
- 第4章 子ども・若者の「居場所」づくりに関する事例分析、中部教育学会紀要 5、2005、29-44。
- 第5章 「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク」構築事業の初歩的な成果について、日本ボランティア学会学会誌 2012年度版、2013、118-128。
- 第6章 保護者にとっての「放課後子ども教室」、日本子育て学会子育て研究（論文編）3、2013、28-33。
- 第7章 「放課後子ども教室」に参加する地域ボランティアの子どもに対する見方の変化、日本ボランティア学会学会誌 2011年度版、2012、109-118。

第8章 「絆」づくりの「初発の契機」としての人びとの「学び」、日本学習社会学会・学習社会研究（学習社会とつながりの再構築：学事出版）2、2013、50-60。

2001年に岐阜大学に助教授として赴任して以来およそ十数年、地域・自治体の社会教育・生涯学習実践にできるかぎり関わり、実践に専念している関係職員と地域住民のみなさんに「伴走」「伴奏」（末本誠・小林文人）することを自らのライフワークとしてきたつもりである。本シリーズの基底は、そうした実践と職員・地域住民のみなさんとの「つながり」であることはいうまでもない。どうか、忌憚のないご批判、ご指導をいただきたい。

最後に、本書を、大学・大学院を通じての恩師である新海英行先生（名古屋柳城短期大学学長・名古屋大学名誉教授）、牧野篤先生（東京大学大学院教育学研究科教授）に、そして、私をいつもエンパワーしてくれる最愛の妻・優子（愛知学泉大学准教授）と、いつも元気いっぱいの子息・慧丈と聖悠に捧げたいと思う。

2014年5月

益川 浩一

現代社会教育・生涯学習の諸相 第Ⅲ巻 実践編

目 次

| | |
|---|----|
| 緒　　言 | 1 |
| 第1章 「公民館事業」研究の到達点と課題 | 7 |
| 1. 「公民館事業」研究の現状 | 7 |
| 2. 「公民館事業」研究の諸相 | 9 |
| 3. 「公民館事業」研究の課題 | 16 |
| 第2章 公民館(社会教育)実践研究の視点 | 26 |
| 1. 「公民館実践」と「法」・「政策」・「行政」 —小川利夫の提起— | 26 |
| 2. 「公民館(社会教育)実践」の歴史的、今日的、 ユトピア的問題考察 | 28 |
| 3. 小川利夫社会教育論における 「公民館(社会教育)実践」研究の視点 | 32 |
| 4. 小川利夫社会教育論における 「公民館(社会教育)実践」研究の「方法と対象」 | 33 |
| 5. 今日の社会教育・生涯学習をめぐる「法」・「政策」・「行政」の 動向と「公民館(社会教育)実践」—小川による批判— | 39 |
| 6. まとめに代えて | 41 |
| 第3章 公民館事業の企画・運営と公民館職員の役割 | 44 |
| 1. 地域住民による公民館事業の企画・運営 | 44 |
| 2. 公民館職員の専門性とその役割 | 46 |
| 3. 公民館職員と地域住民の「参加」をめぐる理論的議論 | 48 |
| 4. 大橋謙策・佐藤進による「公民館主事論争」 | 49 |
| 5. 岐阜県多治見市における地域住民の「参加」による公民館実践 | 52 |
| 6. 公民館実践を通じた「人間関係」(social capital)の 形成・蓄積とコーディネーターとしての公民館職員の役割 | 56 |
| 第4章 子どもの学びと社会教育・生涯学習 | 61 |
| 1. 子ども・若者の変容と「居場所」 | 61 |
| 2. 「週休2日制対応事業『井郷子ども塾』」の活動内容 | 64 |

| | |
|---|-----|
| 3. 「井郷子ども塾」のメンバー（参加者）と職員・地域講師 | 67 |
| 4. 活動の様子 | 68 |
| 5. 「週休2日制対応事業『井郷子ども塾』」の意義 | 75 |
| 第5章 若者の学びと社会教育・生涯学習 | 80 |
| 1. はじめに | 80 |
| 2. 「学生ボラネット」を進めるにあたって | 81 |
| 3. 「学生ボラネット」事業の事業枠組みと目的・目標 | 83 |
| 4. 「学生ボラネット」の実績 | 86 |
| 5. おわりに | 90 |
| 第6章 保護者の学びと社会教育・生涯学習 | 93 |
| 1. 問題 | 93 |
| 2. 方法 | 96 |
| 3. 結果 | 97 |
| 4. 考察 | 102 |
| 第7章 地域住民の学びと社会教育・生涯学習 | 105 |
| 1. はじめに | 105 |
| 2. 岐阜市「放課後チャイルドコミュニティ」事業と アンケート調査の概要 | 106 |
| 3. 地域ボランティアにとっての「放課後子ども教室」 | 107 |
| 4. おわりに | 114 |
| 第8章 高齢者の学びと社会教育・生涯学習 | 116 |
| 1. 転換期にある社会と「絆」づくり | 116 |
| 2. 「くるるセミナー」の概要 | 117 |
| 3. アンケート調査結果から捉えられるシニア世代の意識 | 118 |
| 4. くるるセミナーの枠組みと実践 | 121 |
| 5. くるるセミナーの意義 | 123 |
| 6. まとめに代えて | 125 |